

都 鳥



第2号

2007年11月版

題字「都鳥」は、伊藤幸子の書

消費者から生産者へ

---「都鳥」からのメッセージ---

秋も酣となりました今日この頃、皆さんには御機嫌よくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

「都鳥」第1号は、執筆を依頼した第一走者の方々が、快く原稿をお寄せ下さいましたので、予定通り2007年5月の関東二七会で、皆さんのお目にかけることができました。それに続いて第二走者の方々が、編集者の希望を容れて遅滞なく御執筆下さいましたので、ここに第2号を無事お届けする運びになりました。皆さんの御声援と御協力に、編集者一同心からの感謝を申し上げます。

他人の書いたものを読むのは、消費者の立場です。自分が書くと言うことは生産者になることです。消費者がいなければ生産は成り立ちませんし、良き消費者であるということは極めて大切なことです。「都鳥」にお書き下さることは、消費者の立場をさらに超えて、生産者の立場に身を置いて頂くことです。生産者であることは、消費者であるよりも一層の努力を要します。しかしその手間や苦労は、それに見合うだけの達成の喜びによって報われます。その喜びがまた、他の人々の産み出した作品をより良く理解し享受する助けになります。生産者になるということは、一段と優れた消費者になることでもあるのです。

これからもどうぞ、良き生産者＝消費者になって下さって、私達の「都鳥」を豊かな共通の財産にして行くことに御協力下さいますよう、心からお願い申し上げます。

(伊藤幸子記)

伊藤 貴美子

三重県四日市市前田町 25-17

骨 折

- (1) 61歳の時、グリーンランドで、夏草のツタに足をとられ、倒れました。この時は、左足の小指にひびが入り包帯による2週間の固定で治りました。
- (2) 67歳の時、孫宅で、階段を2段階踏み外し、左足膝関節の骨折で金具を入れる手術。35日の入院と曲げると痛いリハビリでした。1年を経て金具を取り出す手術に10日の入院、2回共下半身麻酔でした。
- (3) 71歳の3月、ペースメーカーの勉強会の帰り、駅のホームで、前の女の子が、後ろ向きに何故か私に突進、バランスを崩して仰向けに倒れ、腰の圧迫骨折。この時は、3ヶ月のコルセットが必要でした。
- (4) 73歳の2月、散歩の時、側溝に元氣よく足を突っ込み、左足首の複雑骨折。ボルト10本にプレート1枚の金具を入れる手術で又35日の入院。退院時も、体重を掛けない装具をつけました。普通10週間で取れるこの装具が、加齢で骨の成長がわるく、19週でやっと取れました。まだ歩きにくく、普通の人の2倍は必要です。(8月現在)
私、骨折では欠陥人間のようです。

伊藤 八重子

四日市市笹川 6-26-15

奇 跡 の 水

友達から、新製品が出たからとローズマリーを主成分としたクリームをいただ

きました。

高価なものなので使うのをためらっていた私は、ローズマリーにつながる奇跡の水のことを、思い出しました。

14世紀、ハンガリー王亡きあと、エリザベート1世は、ハンガリー王妃として多くの国民から愛され、支持を得ていきました。しかしその王妃も70歳をすぎ容姿共に衰え、明るさや元気を失っていきました。

心配した国民からの多くの贈り物の中に、修道院の尼僧が王妃のために作った世界最古の化粧水がありました。王妃は香りが気に入り、毎日全身に使用していたそうです。

その効果を実証する出来事が起こりました。宮殿に招待されたポーランド王子が、王妃を一目見たとたんに恋に落ちプロポーズしたのです。その時ポーランド王子はまだ20代、それ以来この化粧水(主成分はローズマリー)は、若返りの水としてヨーロッパの女性に珍重されてきたのです。

今は、15年にわたるローズマリー研究の結果、すばらしい成分が発見され、さまざまなアンチエイジング効果が期待出来ることが科学的に解明されています。

700年も前に、このような奇跡の水が作られたことは、愛と知恵の結晶と言えるでしょう。

知恵は科学を上回ると言われますが、古人の知恵には脱帽です。

鹿島 清孝

いなべ市藤原町山口 2178

楽しかったです

五月の関東二七会、お世話になりました。

会いたかった彼女ともお会いできたし、また初めてお会いできた彼女とも仲良くなり、とても楽しかったです。彼氏でなくしてお許しを!!

横浜港の山下公園は初めてで、赤いクツのお嬢さんとも会いました。

そして、後藤さんの案内で北朝鮮の工作船を見た時はびっくりしました。漁船の形をしていますが正しく軍艦です。あのような船が日本海等で拉致をしたと思うとゾットしました。

マッカーサーの部屋も見ましたが、、、なんか戦争中のことを思い出しました。二度と戦争はごめんこうむりたいです。広島、長崎、四日市のような焼け野原は、子供、孫には絶対に見せたくないですね。

関東二七会、楽しかったです。

木村 達也

横浜市鶴見区東寺尾 5-5-43-203

思い出すままに

随分長かった会社生活、責任が無くなりほっとした時には正真正銘のお年寄りになっていた。今は健康に感謝しつつ気楽に日々を送っている。

最初の渡航は昭和 39 年春で、1 ドル 360 円の時代であった。円の持ち出しは 20 万円までに制限されていて大体 550 ドル相当である。それでも日米共に今の貨幣価値とは大きな隔たりがありそれなりに使い出はあった。

技術習得を目的としたアメリカの提携会社への出張で、マナー等も事前に講習を受けて臨んだ事を覚えている。

世界の動きは早く、そんな中で日本も円が交換可能通貨となる IMF 8 条国へ移行、海外旅行の自由化、東海道新幹線の

開業、東京オリンピックの開催など多彩な一年であった。

そしてもう一つ忘れ得ないのはこのオリンピック開催期間の真中を狙って中国が初の核実験を行った事である。隣国として国際マナーに大きく離反する動きであった。

その後も出張は各地へ及んだが、その中で共産各国には心許せる思いが一つも無い。旧ソビエト連邦に組み入れられていたルーマニア・チェコスロバキア・ポーランドの人たちが夫々の国民としての尊厳を傷つけられつつ忍従の生活に耐え抜いていたのは悲しい思い出である。最近チェコへ行ってみたがすっかり明るい国になっていた。良かった、本当に良かったと心の中でつぶやいた。

今年と同窓会の後、撃沈した北朝鮮の工作船を見に行った。最近では中国の潜水艦が日本の領海を無断で調査するなど日本への脅迫と危険は日に日に強まっている。後藤隆三君が現役時代に本当に命を懸けてこれらに対応してくれた事を思うと誠に頭の下がる思いであった。憲法 9 条守って国滅ぶという事にならないよう願うばかりである。

後藤 隆三

川崎市多摩区三田 3-1-2-6-206

海と私 (その1)

私と海との付き合いは、富田浜に始まります。富田浜で泳ぎを覚え、四日市港に入港する船を見て海のロマンに憧れ、職業の場を海上保安庁にしました。

海上保安庁の任務は、海難の救助、密航密輸の取り締まり、船舶の航行安全確保です。

最初の任地は、舞鶴海上保安部の巡視船でした。この時代、次のような出来事が記憶に残っています。

韓国が設定した「李承晩ライン」付近に出漁する日本漁船の保護の任務についているときです、日本漁船を拿捕しようとして接近する韓国警備艇と日本漁船の間に割り込み拿捕を阻止したのですが、警備艇から銃撃を受けました。

北海道沖に出漁する鮭鱒漁船の海難救助の任務にもつきました。昭和32年当時は39トン型木造漁船が多く、海難発生は日常茶飯事でした。カムチャッカ沖から一度に3隻の漁船を曳航して花咲まで帰ったこともありました。海の厳しさを教えられた新任航海士の時代でした。

谷奥 由紀子

大阪市住吉区我孫子 2-11-4

浮寝鳥

楽しかった四高時代と別れてもう55年、皆さんそれぞれ波乱万丈の時を過ごされた事と思います。

長くて短い人生、私にもいろんな事が…。苦勞知らずで過ごした四日市を後に、家族5人で大阪へ来て40年余りたちました。

大阪での30年は苦難の日々、看病に明け暮れ、その甲斐もなく4人を亡くし65歳でただ一人になってしまいました。

それから10年…。少し遅いけど、空白の時間を取り戻さなければ！と、濃縮の日々を過ごしています。

悲しみと引き換えにもらったたっぷりの時間を大切にと、世界の殆どの国々を見て来ました。車の免許も69歳の時取り、ゴルフも始め、若い頃やってたお琴、

三味線、ダンスなども再開し、一日を三日分楽しんでます♪。亡くした沢山の人の供養にと、四国巡礼にも出かけています。

いつまで続くのか分かりませんが、「生まれた時に決められた」と言われる寿命のある間は頑張ろう！と思っています。

私の今の望みは、後世に残る何かを…。と、思うけど悲しい事に何もない。せめて…。と、身近にいる若者達が少しでも向上するように精一杯応援し、引き換えにエネルギーをもらって、これでいいのかな？と思いながら、流れのままに暮らしています。

中村千鶴子

東京都目黒区目黒 3-8-10-906

半世紀前の思い出

“ほんでなあ”から始まる漢文の授業、先生が出席を取る。生徒はまじめに、全員ハイと返事をする。まさしく全員出席の返事。

ところが、先生はどう見てもおかしいと思い、出席簿を両手に持って、二回目は一人ずつ起立させて取り直すが、やはり一回目と同じく全員出席。実は生徒の中に名役者がいて、代返と起立をしていた。その名役者が誰だったのかは、思いだせないが……。

勉強をするために登校しているのに、ほんの少しでも授業時間が少なくなるのが嬉しくて、こんなことが起きていたのでしょう。

振り返れば、65才までは若かった。70才になって始めて、今まで何をしていたのか、戻らない時間があったと思っ

無理をしてドレスアップした（大したことないのに）心と身体が、悔やまれてならない。今は、もっと自由に、生き生きと、ありのままの私でありたい。



母校の校門 (R.G)

懐かしい母校の校門です。現在は取り除かれて、校舎裏手の中庭に記念碑として移築されています。

西脇 基夫

藤沢市湘南台 6-55-1

狐と油揚げ

私たち家族が滋賀県に住んでいた頃の話である。琵琶湖の西岸はすぐ山につながっていて、山の中腹にある住宅地からは眼下に湖水が広がる景勝地であったが、山に近いので狐や狸が出てくる自然豊かな土地でもあった。

夏の盛りに庭でバーベキューを楽しんでいると必ず狐の親子が出てくる。春先に子供を生んで、この頃になると子犬くらいに成長していてとても可愛い。子狐は、毎年3匹ほど生まれて、母狐の傍で絡み合って遊んでいる。

この年の夏も終わり、伸びた芝を刈って山に捨てにいったらサンダルが200個ほど散らばっている。よくみると巣立ってしまった狐のほら穴であった。子狐が

住宅の庭先からくわえてきたサンダルらしい。左右両方が揃っていれば100足であるのだが、ほとんどが片方だけだから200個なのである。

集めて「子狐のいたずらです。すみません。母狐」と書いて門の外に並べておいたら、近所の方々が「うちのサンダルがある」といって持って帰られた。誰かが新聞社に電話したらしく、朝日新聞社の記者がきて取材して帰った。しばらくして、新聞の娯楽版半ページに私たち家族と狐の話が紹介された。

年の暮れに町役場の女性二人が油揚げ2枚を持って我が家を訪れた。「狐にあげてください」という。理由を聞くと有線放送の全国大会で「狐の話」をしたら優勝してしまったという。そのお礼だというのである。ありがたく頂いて庭先に並べておいたら、翌朝にはなくなっていた。

濱口 博彦

横浜市旭区中希望が丘 75-4

珍味 - バルート

皆さんは、“バルート”と云う食べ物を知っていますか？ ボクはこの食べ物に口惜しい思いをもっているのです。

1969年の夏、農薬関係の国際学会がフィリピンのマニラ郊外にある国際稲作研究所で開催されました。ボクも、日本の大学や研究機関の先生、農薬メーカーの研究者からなる約30名の団体に加わってこの学会に出席しました。

会の3日目、皆で町に繰り出し居酒屋のようなところで食事をしました。食事のあと、夜風に吹かれながら田んぼのなかの並木道を宿舍まで歩いて帰りました。途中、街燈の下に老婆が一人、布巾をか

ぶせた手提げ籠を持って立っていました。ボクは彼女に何を売っているのか、英語と日本語で訊ねましたが、言葉は全く通じないことが分かりました。布巾を持ち上げてみると、籠の中に温かい“ゆで卵”が10個ほど入っていました。ボクは3個手に取り、ポケットにあった小銭を全部差し出しました。老婆はそこからいくばくかを取り有難うとのしぐさをしました。

宿舎に戻ると酒宴が始まっていました。ボクは団長のM先生に1個、副団長のN先生に1個、卵を差し上げました。両先生は“有難う”と言ってテーブルの角でポンと割りました。とたんに「ヒャー！」と大声を上げて卵を床に落としてしまいました。

残りの1個はボクの手許にありました。注意深く割ってみると、割れ目から卵白がたらりと漏れ出しました。中を覗いてびっくり、そこには黄色い大きな嘴と青白い皮に覆われた大きな目玉が鎮座していました。結局、卵は3個とも新聞紙にくるんで棄ててしまいました。

翌日、学会の晩餐会に招待されました。カクテルの半ばで、ボクはフィリピン大学のV教授と食べ物を取りに行きました。教授はビュッフェに並んだ御当地料理の解説をしながら、「今日は、フィリピン随一の珍味が出てなくて残念だね」とのたまうたのです。「それは何ですか？」と訊ねたところ、「現地語でバルート、孵化直前のアヒルの受精卵です」とのこと。あ、あれがそうだったのか、と、ボクは非常に残念な気分になりました。

あれから40年。残念ながらその後フィリピンを訪れる機会がありません。さて、この年になって、バルートに出くわしたとしても、はたして食べる気になるかどうか、皆さんは如何でしょう？

三枝樹昭道

四日市市本町 2-7

セピア会

第十一回旧制富中セピア会は十一月十日（水）湯の山温泉グリーンホテルで開催、三十四名が参加しました。

今回はドイツから今井敏恭君と、川崎から稲垣伍良君が初参加しました。今井君は仕事で大阪の見本市にきた機会を利用して参加してくれたものです。今井君は、お父さんが海軍燃料廠に勤務していた関係で、日永小学校より富中に進学、富中二年のとき、お父さんの転勤で横浜に移ったとのこと。

仕事の都合で参加できない人、自分あるいは奥さんの体調不良のため、参加できないと言ってきた人、あるいは息子さんから、父はなくなりましたと言ってきた人（片山勝君）、今年八月末亡くなられた人（大西三郎君）など様々ですが、参加できた人は話に花を咲かせ、そのあと二十名近くの人がカラオケを歌い、元気に夜更かしをしました。

そして、翌日は八名、二組が三重カントリークラブでゴルフを楽しみました。来年も沢山の旧友がセピア会に集まってくれることを期待しております。

米澤 瑞枝

茅ヶ崎市円蔵 2570 - 6

私とつるし雛

「都鳥」を頂きました。次回にとのお声が掛かり、孫の夏休みの宿題のような気分で勇気を出して一言、恥ずかしいナ！

一昨年、家の近くに市のコミュニテイ

センターが出来、月一回の“手作り教室”有志の集まりに参加して居ります。以前より小物作品で余暇を過ごしていましたが、最近、伊豆稲取の“つるし雛”が“河津の桜祭り”（早咲き）とセットになったバスツアー観光が盛大になり、それが切っ掛けでのめり込み、孫に、姪っ子、それが嵩じてお友達にと……、数々の作品になりました。満足することなく、各々の家庭の片隅に、又“ひな祭り”に飾られているかな？と思うと嬉しくなります。

可愛く出来上っていますよと喜んで頂きながら、テレビでも布草履などが話題に上がる古布のリサイクル時代、昔の着物、頂いた風呂敷、掛け襟、帯揚げ等、和ダンスの整理を兼ねて“つるし飾り”の小物に変えて楽しんでます。いつまで針に糸が通せることでしょうか、少しでも永くあれと！

又、近くに流れる河岸を御近所の方々と歩いて、花木、草花、目白やタゲリ等の鳥たち（保護鳥の田園あり）、四季の移りと世間話を楽しんで、認知症予防に、日々気を付けています。

今の世、突然何事に見舞われるか分からない、平凡ながら家族と共に健康でありますように願いつつ。

渡邊 千恵子

春日井市藤山台 5-4-8

八月に思う

春日井市に住んで33年になります。

この夏、最高気温 40.9℃を記録して有名になった多治見市と名古屋市の中間に位置します。

「老人の熱中症に注意！！」などと報じ

られますので、猛暑日はなるべく日中の外出控えてひっそり暮らしていました。しかし、エアコンも使える現代は、有難い事です。

昭和20年8月15日も炎暑でした。国民学校6年生には、衝撃と混乱の昼下がりがりだったことを思い出します。62年前の事でした。

今年、初夏の頃、三年ぶりに北欧に住む娘家族を訪れ、孫たちと一ヶ月過ごして来ました。孫娘がちょうど敗戦時の私の年齢になっているのです。たまたま、アムステルダムへ小旅行をした折「アンネの家」を訪れました。1930年生まれアンネ・フランクの日記も、記録も、あらためて私の記憶に刻みなおし、三世代の話し合いになりました。

6日には広島原爆平和記念式典で小学6年生の少年少女が平和を誓いました。映像を見ながら様々な思いが錯綜しました。

増える核、絶えない紛争、紛争地の子どもたちは？

世界中の子供たちの未来が明るく開かれますよう日々祈ります。



海王丸 (R.G)

ユビキタス社会

ユビキタス、聞きなれない言葉ですが、ユビキタス社会がくるといわれています。すでに来ていると言っても過言ではありません。ユビキタスとは英語で「いつでも、どこにでもある」という意味の形容詞です。例えば、私たちの生活のなかで、鉄は「いつでも、どこにでも」ある金属です。私たちの生活に深く溶け込んでいて、価値ある金属ですが、私たちは特に意識することもなく「ああ、鉄か」という感じで受け止めています。すなわちユビキタスな金属なのです。

ならば、ユビキタス社会とはなにか。私たちの生活のあらゆる場所に情報通信網が整備され、私たちはそれを意識することもなく、いつの間にか利用して、その恩恵にあずかるという社会が目の前に広がりつつあります。

私たちの年代で銀行や郵便局のキャッシュカードが使えない人はいないと思うが、年配の方には、時代についてゆけなくて、窓口で現金の出し入れをしている人を見かけます。これが他人ごとではなくなってきました。私たちのまわりに新しいシステムが次々と登場しています。

まず、パソコンでのインターネット取引である。在宅のまま、銀行の入金や支払いができるし、株式の売買もできる。こちらの方が手数料も安いというから、いまやパソコンが使えないと、不利益を蒙ってしまう。

次に携帯電話である。通話だけでなく、インターネットに接続可能で、電車の中で経済ニュースが読めるし、株式の売買もできる。便利だ、便利だと思っていたら、今度は「パスモ」というICカードが出てきた。

いまのところ地域限定で全国では使えないが、関東では「パスモ」、関西では「イコカ」という名前で発売されている。ICカードをかざすだけで首都圏のすべての鉄道とバスに乗車できる。必要ならば買い物もできる。まだ、すべてのことが、いつでも、どこにでも、にはなっていないが、「ユビキタス社会」に近づきつつある。いずれ携帯電話と相互して本格的な、ユビキタスの時代がやってきます。

総務省の「情報通信白書」では、ユビキタス社会が進めば、2010年のGDPが成長率で1%上昇すると予測しています。一方、白書は「情報を利用できない人たちは、この経済効果を得ることが出来なくて、特に高齢者、低所得者層では、マイナスの効果に陥る危険がある」と警告しています。

どうして高齢者は利用できないか。それはチャレンジしないからだと思う。確かにパソコンはやたらと約束ごとが多くて、操作になれないと使えないかもしれないが、やってみれば意外と簡単なのである。携帯電話、パスモ、自動車のカーナビなどは、いったん持ったら離せなくなる。そんな便利な道具なのです。

まず、使ってみることで。パスモを持って、改札口で「ピィ」と鳴らすだけで、東京駅に30分もはやく到着できます。皆さん、何事も興味をもって生活しないと、時代から取り残されてしまいます。

(西脇基夫 記)

毎回、この頁は「特別寄稿」のために用意してあります。皆さん、1200文字程度のご意見をお寄せください。

特集号のお知らせ

次号は、「高校時代の思い出」という特集号を企画しています。高校時代の日常生活の中で記憶に残る事柄、先生方、授業、友達、クラブ活動、通学の往還、休日の過ごし方、あるいは、現在の自分と四日市高校との関わりなどについてエッセイを募集いたします。ほんの数行の短い感想でも結構です。ただし600字以内としてください。締め切りは2008年3月末日とします。常時受け付けていますから、いつでも気軽に下記へ送りください。

(1) 伊藤幸子

〒134-0083 東京都江戸川区中葛西 5-2-7-1005

e-mail : itohs@tbd.t-com.ne.jp

(2) 西脇基夫

〒252-0804 藤沢市湘南台 6-55-1

e-mail : nishiwaki@ruby.plala.or.jp

原稿は、手書きでも結構ですが、電子メールですと編集の手間がかからなくて助かります。フォントの種類、大きさは問いません。自由なスタイルでお書きください。

この冊子「都鳥」は、三重県立四日市
高等学校、昭和27年（1952）卒
業生で作るエッセイ集です。平成19
年（卒業後55年）に同好者が集まり
創刊しました。